

【問合せ先】

第五管区海上保安本部

交通部安全対策課

課長 長澤 孝二

電話 078-391-6551（内線 2640）



第五管区海上保安本部

平成 29 年 4 月 24 日

午後 3 時 00 分 発表

Marine Report 2016

～海難隻数過去最少・漁船や高齢者の事故増加～

- 平成 28 年の船舶事故の発生隻数は、前年比 36 隻減の 211 隻で、平成 13 年から開始した現在の統計手法では過去最少
- プレジャーボート及び貨物船の事故隻数が前年比 30 隻減少した一方で漁船は 10 隻増加
- 小型船舶による事故隻数（174 隻）が船舶事故全体の約 8 割を占める
- 船舶事故全体の約 3 割が高齢者、小型船舶の事故も高齢者の占める割合が年々増加
- これらの調査結果を踏まえ、小型船舶の事故減少に向けて、プレジャーボート、漁船の高齢者の船長を対象とする海難防止活動を一層推進します。

1 小型船舶の海難原因

- (1) プレジャーボートの衝突・機関故障
機関故障は、「整備不良」や「老朽衰耗」が主たる要因
衝突は、「見張り不十分」や「操船不適切」が主たる要因
- (2) 漁船の衝突
衝突は、「見張り不十分」や「操船不適切」が主たる要因

2 海難防止のための取組み

小型船舶の海難防止対策に重点を置き、特に以下の啓発活動を一層推進します。

- (1) 常時適切な見張り、適切な操船
- (2) 発航前点検はもちろん、専門業者による機関の定期的な点検
- (3) ライフジャケットの常時着用
- (4) 高齢者を意識した安全啓発

※平成 28 年の海難発生状況の具体的な内容については、資料編「Marine Report 2016」平成 28 年における海難の傾向の分析資料をご参照下さい。

Marine Report 2016

～海難隻数過去最少・漁船や高齢者の事故増加～

平成28年における海難の傾向の分析資料
□資料編

平成29年4月24日
交通部安全対策課



第五管区海上保安本部

JAPAN COAST GUARD

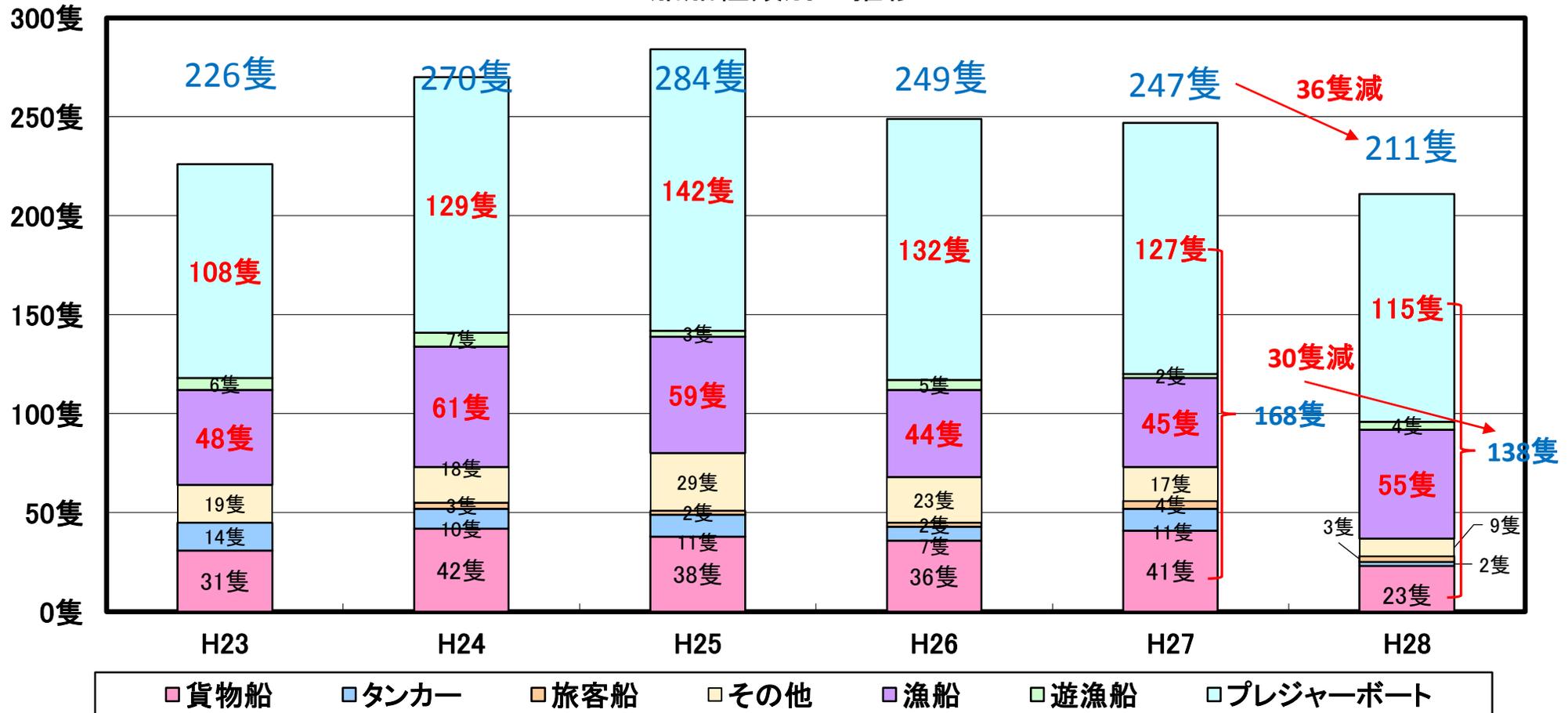
目次

◆ 平成28年船舶事故傾向分析資料	1 ~ 8
1 船舶海難の発生状況	1 ~ 7
(1) プレジャーボートの事故	4 ~ 5
(2) 漁船の事故	6 ~ 7
2 操船者の年齢の特徴	8

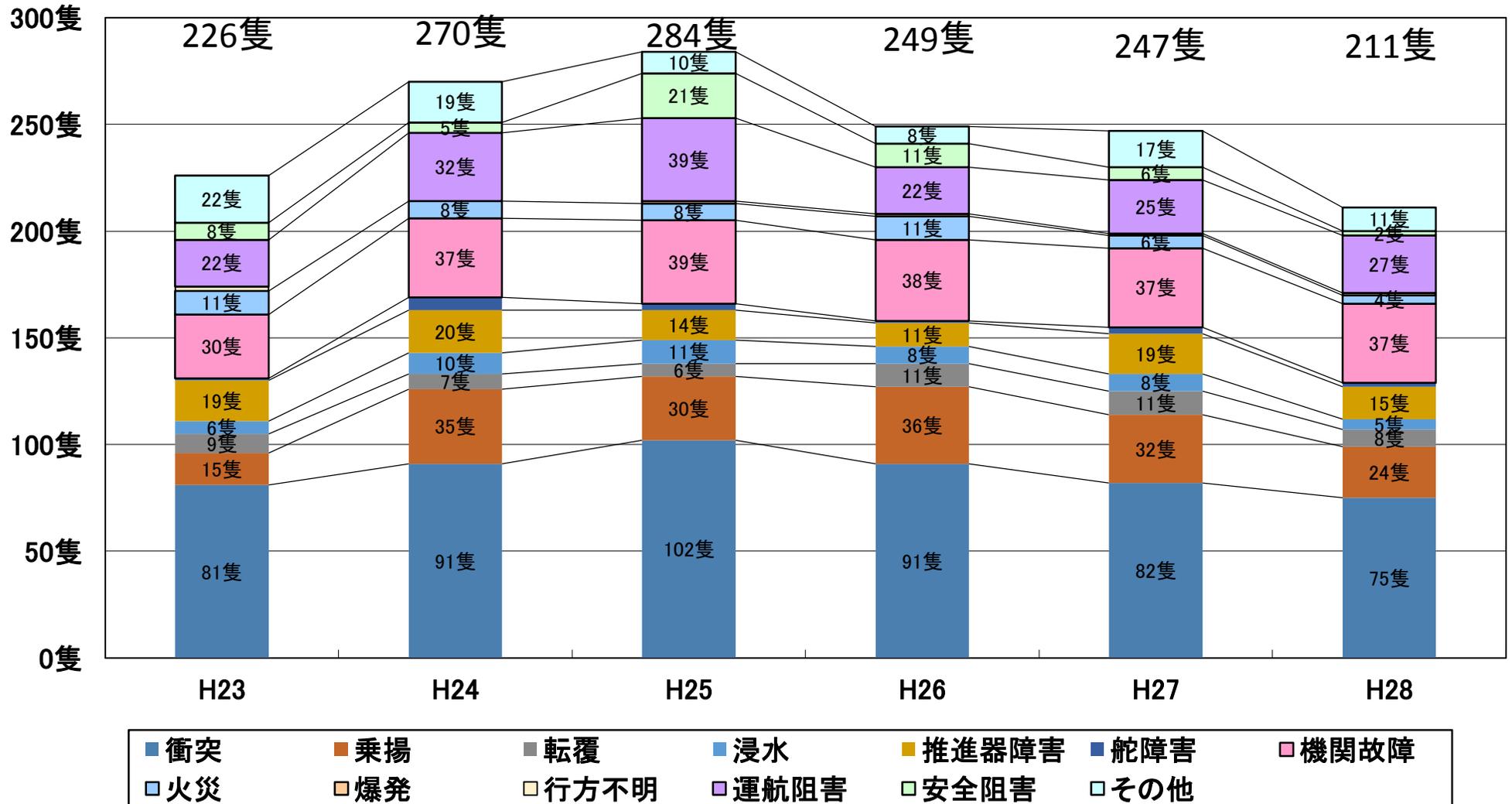
1 船舶海難の発生状況

平成28年の船舶事故は211隻で、対前年比36隻(15%)減少し、平成13年以降最少となっています。船舶種類別の隻数は、プレジャーボート115隻(55%)、漁船55隻(26%)、貨物船23隻(11%)の順となっており、小型船舶(プレジャーボート、漁船)が81%を占めています。

船舶種類別の推移

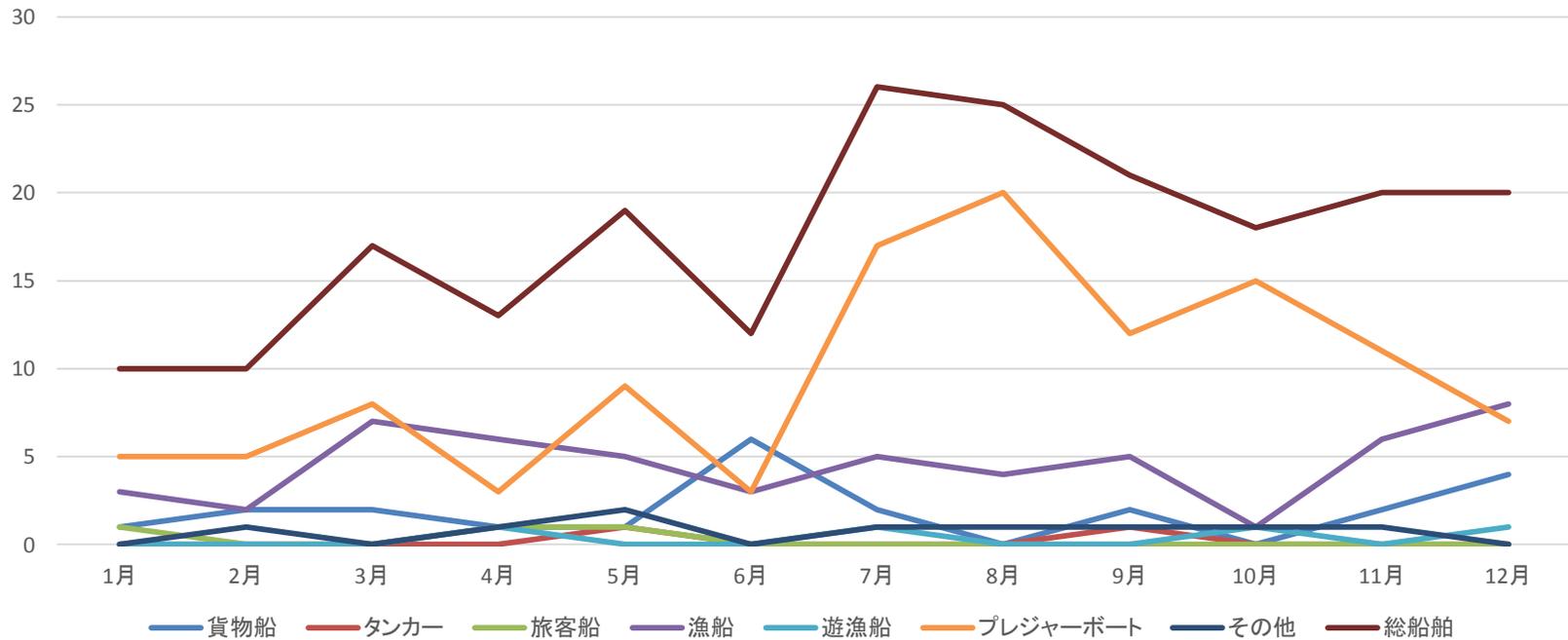


事故種類別の推移



船舶種類別事故の月別推移(H28)

(隻)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
貨物船	1	2	2	1	1	6	2	0	2	0	2	4	23
タンカー	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
旅客船	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
漁船	3	2	7	6	5	3	5	4	5	1	6	8	55
遊漁船	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	4
プレジャーボート	5	5	8	3	9	3	17	20	12	15	11	7	115
その他	0	1	0	1	2	0	1	1	1	1	1	0	9
総船舶	10	10	17	13	19	12	26	25	21	18	20	20	211

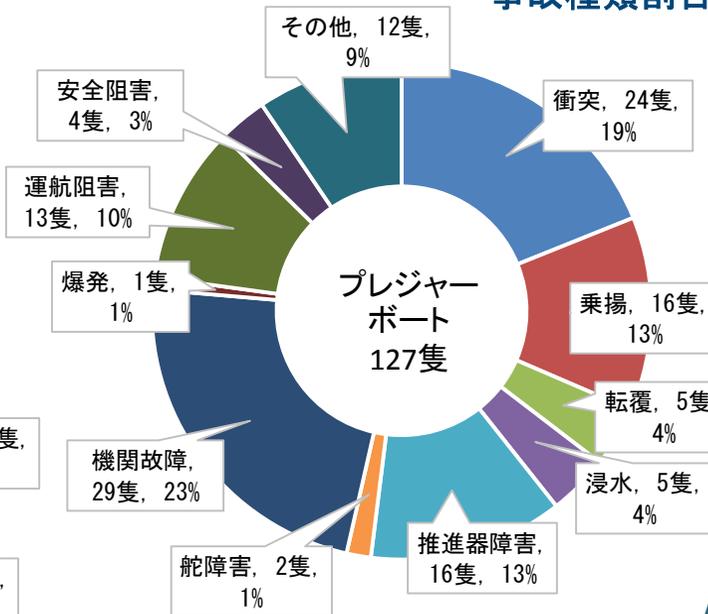


(1) プレジャーボートの事故

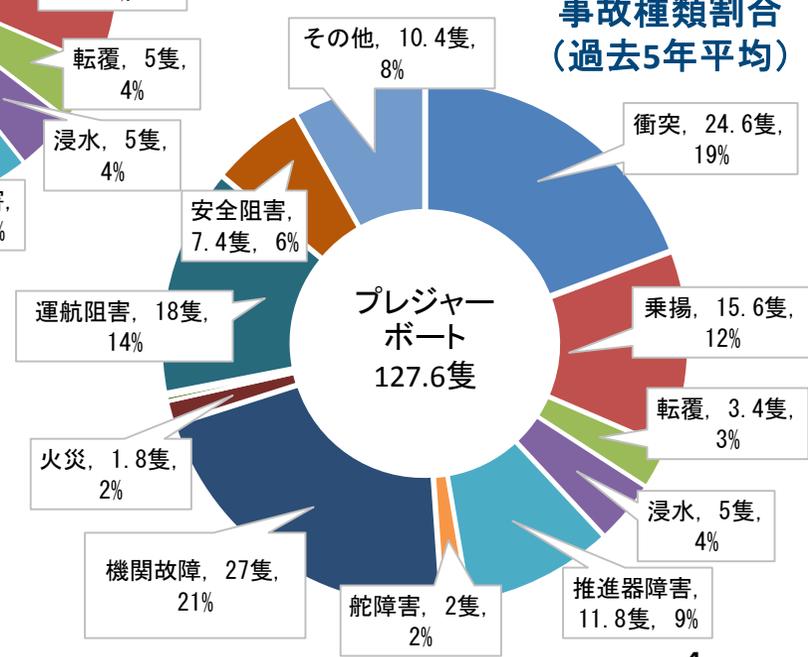
事故種類別の隻数は、機関故障31隻(27%)、衝突24隻(21%)、運航阻害14隻(12%)、乗揚14隻(12%)の順となっています。

過去5年間の事故種類別の隻数においては、機関故障、衝突、運航阻害、乗揚の順となっています。

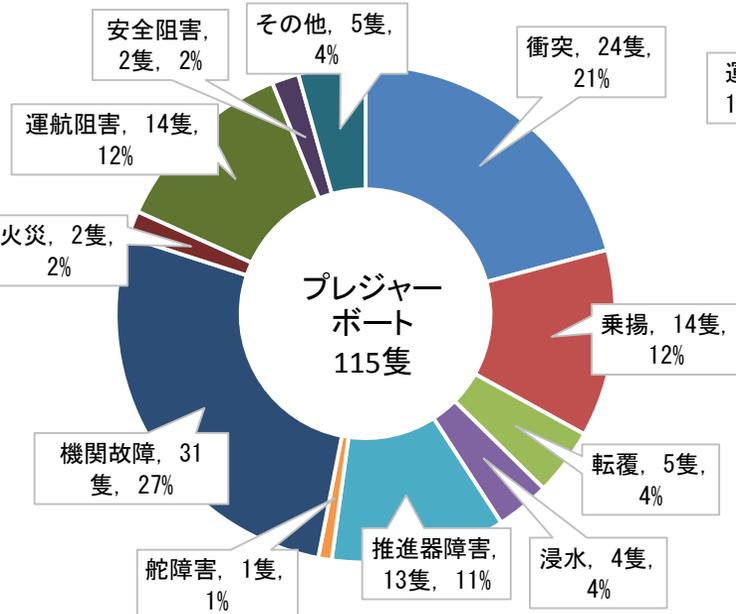
事故種類割合 H27



事故種類割合 (過去5年平均)



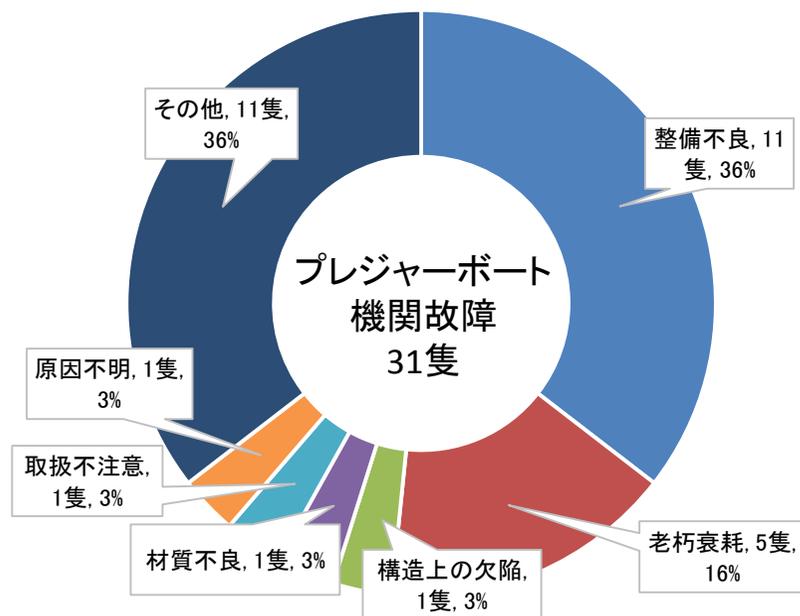
事故種類割合 H28



イ 機関故障

プレジャーボートの機関故障31隻について事故原因別に見ると、整備不良11隻(36%)、老朽衰耗5隻(16%)、構造上の欠陥1隻(3%)等の順となっています。

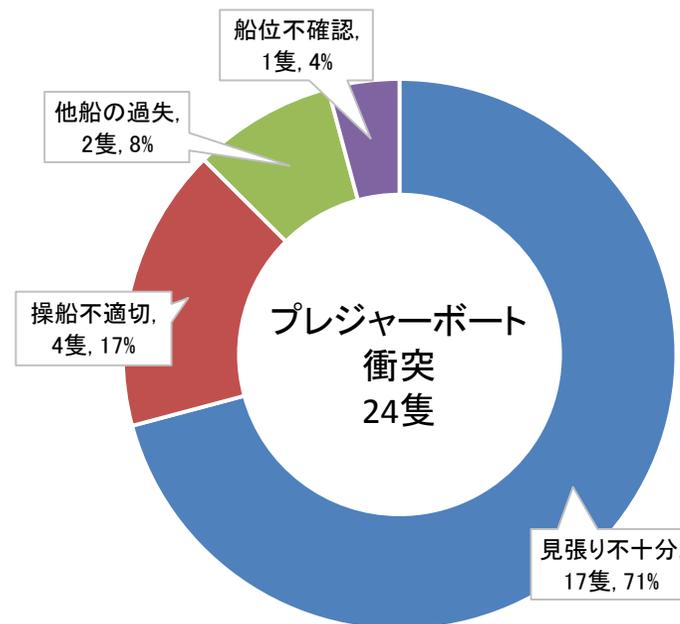
機関故障の原因割合



ロ 衝突

プレジャーボートの衝突事故24隻について事故原因別に見ると、見張り不十分17隻(71%)、操船不適切4隻(17%)、他船の過失2隻(8%)、船位不確認1隻(4%)の順となっています。

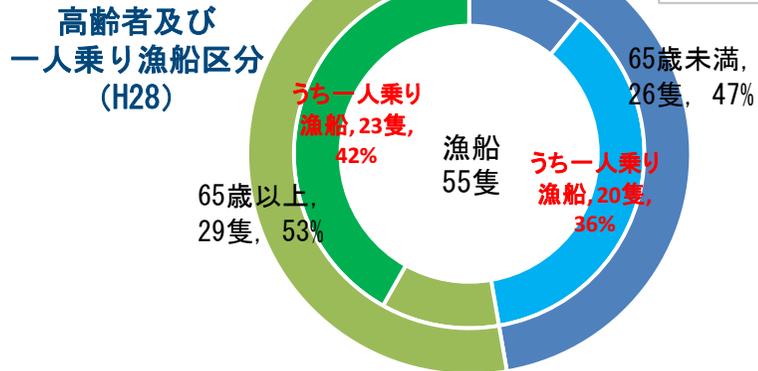
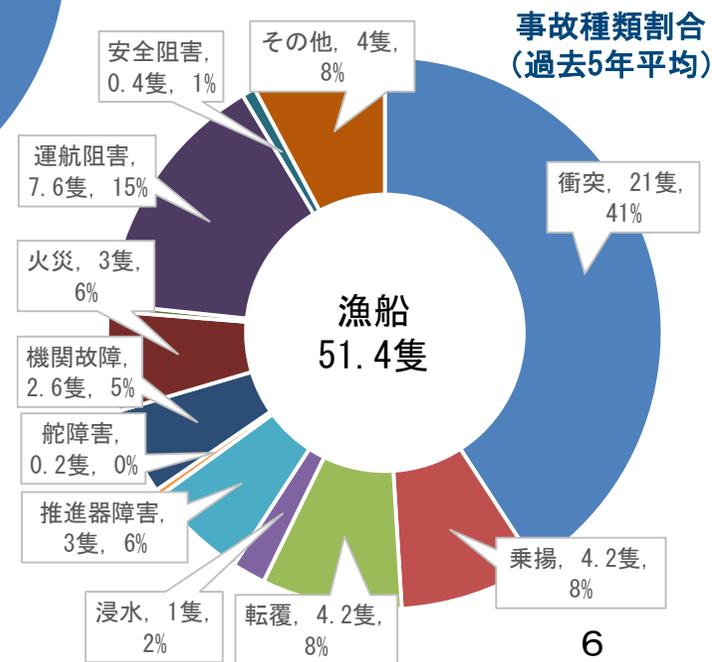
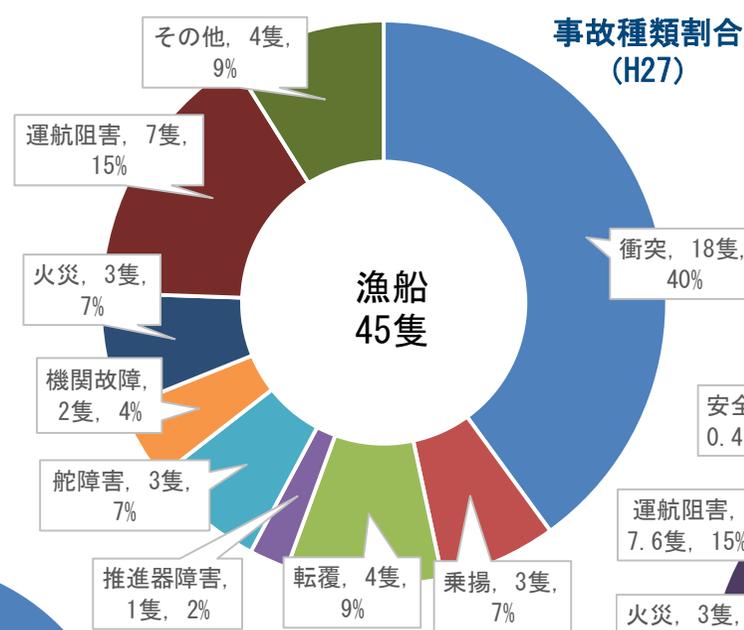
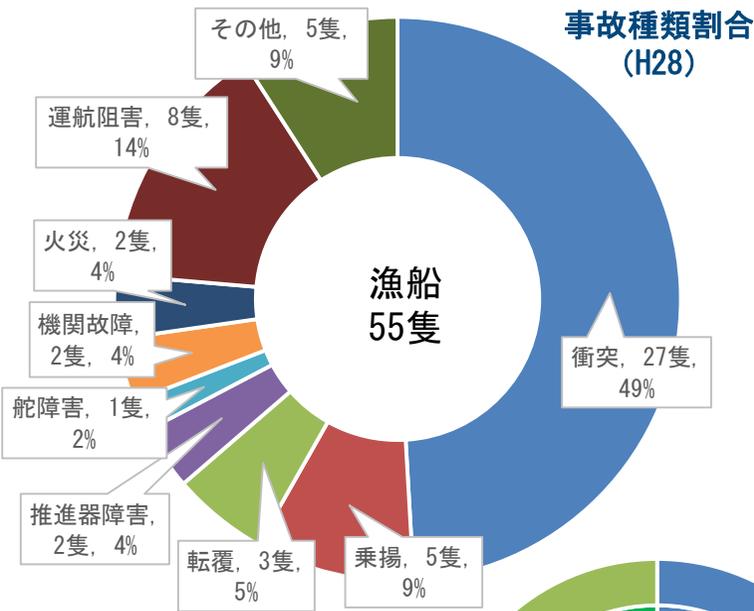
衝突の原因割合



(2) 漁船の事故

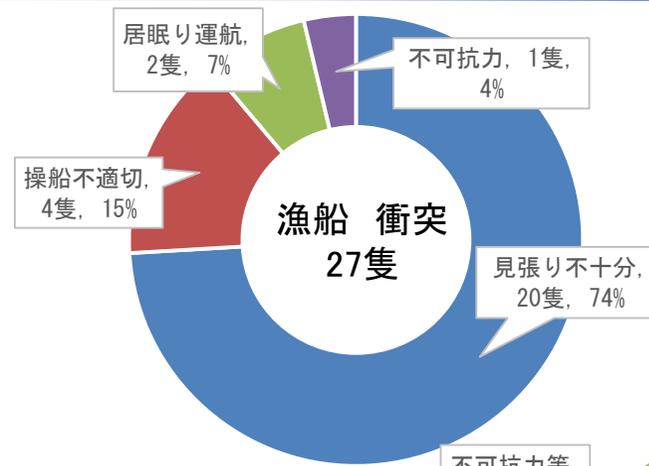
事故種類別隻数は、衝突27隻(49%)、運航阻害8隻(14%)、乗揚5隻(9%)、転覆3隻(5%)の順となっています。

漁船の事故55隻のうち65歳以上の高齢者が操船した船舶が29隻(53%)でした。なお、一人乗り漁船が43隻(78%)、うち23隻(42%)が高齢者となっています。



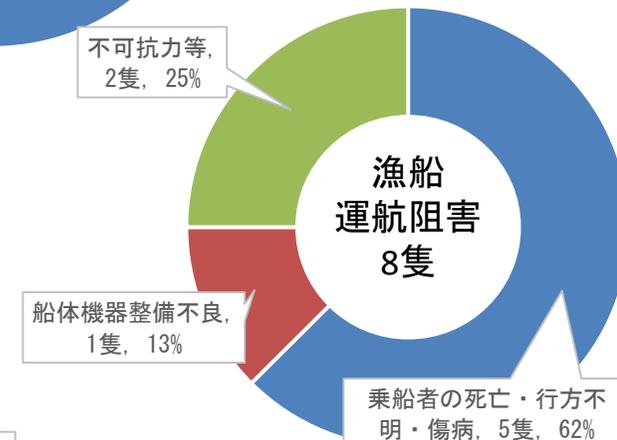
イ 衝突

衝突事故27隻について事故原因別に見ると、見張り不十分20隻(74%)、操船不適切4隻(15%)、居眠り運航2隻(7%)、不可抗力1隻(4%)の順となっています。



ロ 運航阻害

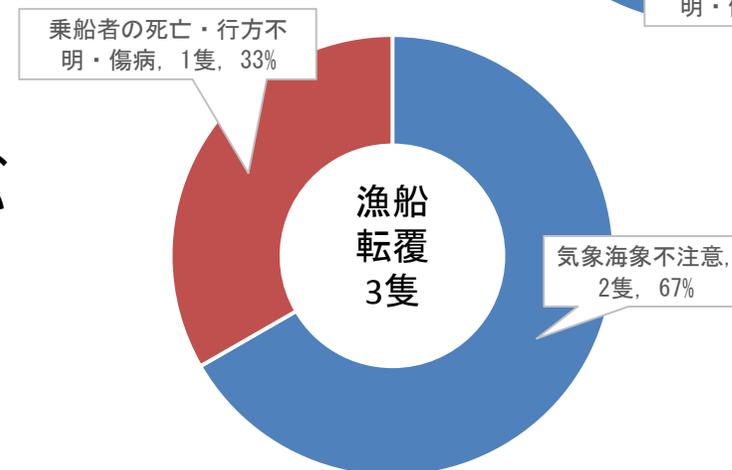
運航阻害8隻について事故原因別に見ると、乗船者の死亡・行方不明・傷病5隻(62%)、不可抗力等2隻(25%)、船体機器整備不良1隻(13%)となっています。



ハ 転覆

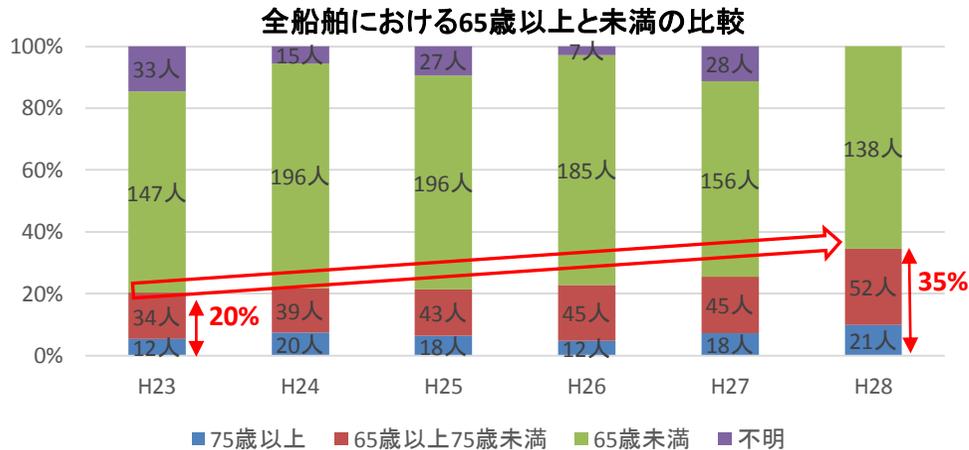
転覆事故3隻全てが、死亡事故となりました。

事故原因別に見ると、気象海象不注意2隻(67%)、乗船者の死亡・行方不明・傷病1隻(33%)となっています。

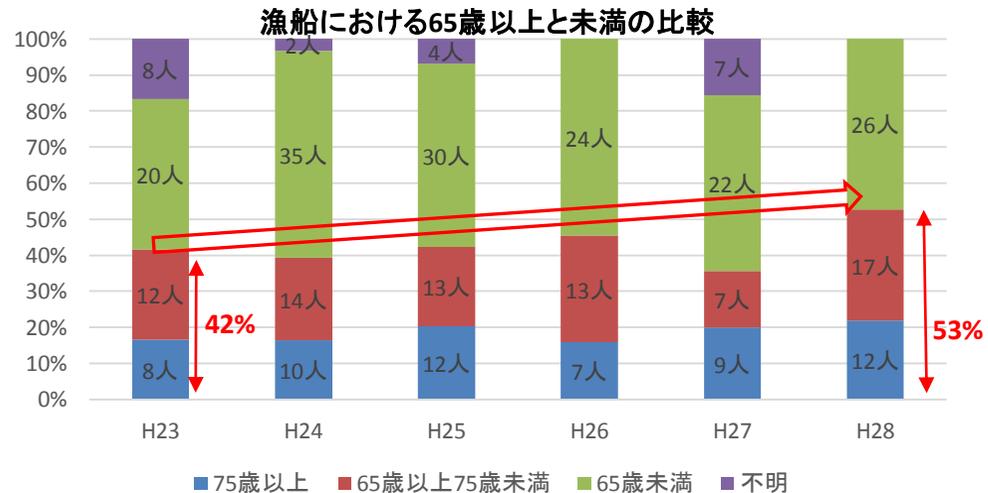


2 操船者の年齢の特徴

■ 65歳以上の高齢者の事故者の割合が増加

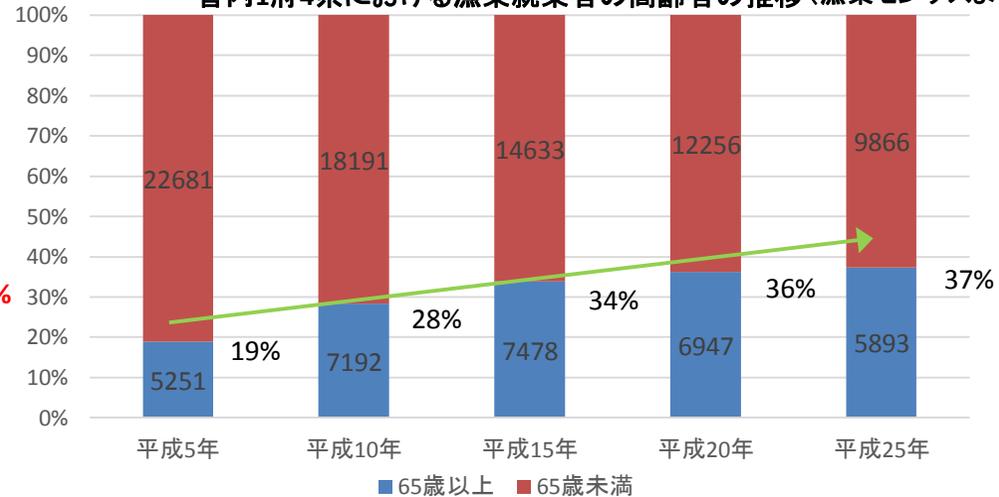


○ 6年間で65歳以上の高齢者の事故者の割合が増加傾向

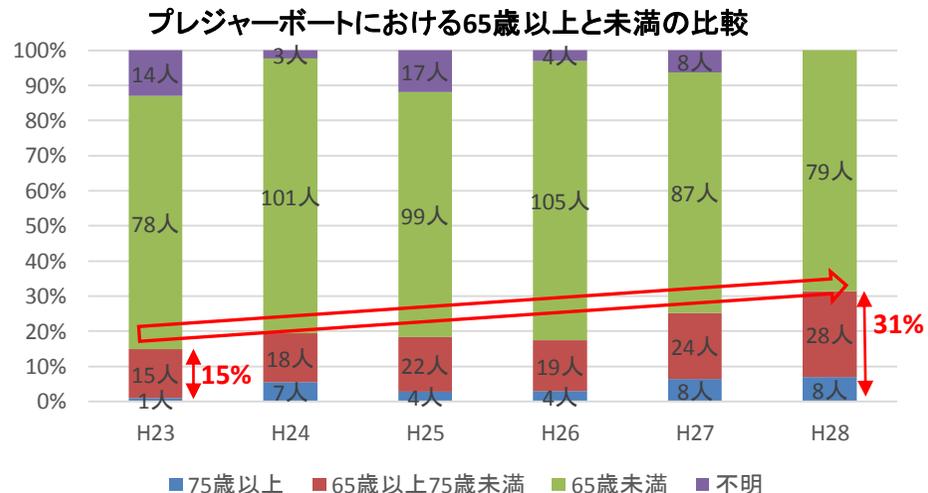


○ 漁船においても高齢者の事故者の割合が増加傾向

管内1府4県における漁業就業者の高齢者の推移（漁業センサスより）



○ 漁業就業者の高齢者の割合は増加傾向



○ プレジャーボートにおいても高齢者の事故者数の割合が増加傾向